

令和7年度 学校関係者評価会議結果

I. 令和7年度 学校関係者評価会議

1. 日時 令和8年3月18日(水) 15:00~16:00
2. 場所 長島愛生園総合診療棟 中会議室
3. 出席者

1) 学校関係者評価会議評価委員 4名

所属	種別	任期
瀬戸内市教育委員会教育委員 元中学校校長、元特任教授	外部講師	2025.4.1~2027.3.31
国立療養所長島愛生園 看護部長	看護管理者	2024.4.1~2026.3.31
国立療養所長島愛生園 副看護部長	卒業生	2025.4.1~2027.3.31
国立療養所長島愛生園 看護師長	園内講師	2025.4.1~2027.3.31

2) 学校関係者 6名

- 長島愛生園附属看護学校 学校長
- 長島愛生園附属看護学校 事務長
- 長島愛生園附属看護学校 教育主事
- 長島愛生園附属看護学校 実習調整者
- 長島愛生園附属看護学校 教官(1年生担任)
- 長島愛生園附属看護学校 教官(2年生担任)

4. 評価内容

令和7年度 学校の教育活動および学校運営に対する実施状況

5. 評価資料

1) 書類審査

(1) 教育活動に関する事項

- ①各年度の教育計画に関する事項(学校概況書、学則・細則、学生便覧、シラバス)
- ②学生の学習支援に関する事項(各学年年間計画、国家試験対策)

2) 学校運営に関する事項

- (1) 自己点検・自己評価の結果(令和7年度自己評価、自己点検結果)
- (2) 学生カリキュラム評価(令和7年度2年生・1年生)

II. 学校関係者評価会議評価委員による主な意見、課題

1. 教育活動に関する事項

1) 各年度の教育計画に関する事項(学校概況書、学則・細則、学生便覧、シラバス)

全体的に特に問題なく整えられている。

2) 学生の学修支援に関する事項(各学年計画、国家試験対策、技術演習)

教育目標に基づいた綿密な指導計画が作成されており、少人数の特徴を活かした指導がされている。カリキュラム評価では肯定的な意見が多く見られるが、学生にとって分かりやすい授業の実施については改善の余地がある。

国家試験対策や看護技術習得に向けた指導では、手厚い指導が行われている。

2. 学校運営に関する事項

1) 自己評価・自己点検結果について（令和7年度自己評価・自己点検の結果）

「Ⅱ. 教育課程経営」について、外部講師との調整や教官の専門性を考慮した担当科目・時間配分ができなかった。しかし今年度は教官の教育実践能力の向上を目指して、同設置主体のハンセン病療養所附属看護師養成所と相互に研修を行った。今後も継続していけるよう取り組んでいく。

「Ⅵ. 卒業・就職・進学」の項目は、昨年度に引き続き卒業生の卒業後の情報把握ができていない。現在の当校の状況を考慮すると、学生確保が優先課題であると考えている。

「Ⅷ. 研究」では、研究への取り組みは個人差があり、看護研究を実施したことのない教官もいるため、個別の支援が必要である。看護研究に取り組んでいる教官は、各自で時間管理をして時間内研究に取り組んでおり、学校としての体制は整っていない。

2) 1年生カリキュラム評価（令和7年度1年次カリキュラム評価結果）

各項目4段階評価で評価点はおおむね4点だった。学生数が少なく、学生に目が届きやすいことで学生に対して個別に対応できることの結果であると考え。学生は何かあれば教官に申し出てきており、教官も気になる学生には声をかけ随時面接を行っている。

講義方法については、教科書だけでなく授業資料の使用を希望する意見が出ている。学生にとって分かりやすい授業をしていくためにも、今後は検討していく必要がある。

3) 2年生カリキュラム評価（令和7年度2年生カリキュラム評価結果）

今年度卒業生が1名であるため「17. 国家試験対策について」と「18. 卒業前技術演習について」の回答は1名分である。2年生も1年生とほぼ同様の結果で、授業資料についても同じ要望が記載されていた。

【取り組む課題】

1. 教官の教育実践能力の向上のため、専門性が発揮できる科目担当や、他のハンセン病療養所附属看護師養成所との研修の継続、研究活動に取り組める支援を行っていく。
2. 学生にとって分かりやすい授業が実施できるよう、講師への働きかけを行っていく。
3. 学生個々の状況を把握し、学生の個別性に応じたきめ細やかな支援を継続していく。手厚い指導が学生確保にもつながると期待している。